

第50回記念山口教区仏教壮年大会

山口教区仏教壮年会連盟理事長
小野原 博

3月8日(土)、山口別院本堂で第50回記念山口教区仏教壮年大会を開催しました。
ご講師には、大阪教区榎並組法栄寺 小林顯英先生(前仏教壮年会連盟講師)をお迎えし「われもひかりのうちにあり」を講題に法話をいただきました。
法話の中で、浄土真宗の教えの特徴は、一言で言えば「念仏をきく」ことだと教えていただきました。私のこの口から南無阿弥陀と出てきてくださったそのまを、この私の耳に聞かせてもらう。だから「念仏を唱える」のではなく「念仏をきく」を大切にしてくださいとお話しになられた事が一番印象に残りました。

午後からは、記念行事としてフリーアナウンサーの横溝洋一郎さんと山口教区防府組超勝寺住職の大來尚順氏のお二人に「今さら聞けないお寺の話」と題して対談していただきました。事前にアンケートを取り「お参りの作法は？」とか、「なんまんだぶって何ですか？」など参加者から寄せられた様々な質問についてお二人に答えていただき、笑いあり、あっという間に時間となりました。

最後に、「半世紀にわたり先人の方々が、「お念仏」を大切にされ、私たちに引き継いでくださいました。これからは、私たちが引き継いで行く順番です。仏壮でお念仏申す朋友の輪を拡げていこう」と参加者全員で確認し大会を終了しました。

